

事例

11

あの企業はこう使っている!

事例に学ぶIT・IoT導入

株式会社パル技研



ニッチな分野でオンリーワンの企業を目指し、超小型電子部品技術を核にマイクロ波侵入監視センサでは国内トップシェアを誇るなど、侵入検知や高度セキュリティの監視技術に特化したさまざまなサービスを提供しています。

PAL 株式会社パル技研

〒761-0301 香川県高松市林町2217番地2
TEL 087-864-3388
HP <https://www.palgiken.co.jp/>

なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「ウチの会社で、どう使ったらいいかイメージが湧かない...」。
そんな皆さま必見のコラムです。
高松のIT・IoT先進企業(リーディングカンパニー)が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。
第11弾は、株式会社パル技研。管理課の木村央詔さんと中村隆志さんにお話を伺いました。

ひとつで万能なツールはない。だからこそ、導入目的を明確に。

スピード感ある導入には
担当部署の主体性がキモ

パル技研では、2018年に業務効率化や情報共有のためにクラウド型(Microsoft 365)のグループウェアを導入しました。

以前はオンプレミス型のグループウェアを導入していましたが、経年による劣化で「動作が遅い」「スバメールが多い」といった声が社員から多く寄せられ、現行の運用に限界を感じていました。

導入にあたって大切なこと

① 導入の目的を明確化

ツールは複数の項目から比較検討しました。まず、オンプレミス型。カスタマイズが自由にできる点が魅力な一方で、その都度コストがかかることがネック。

一方、クラウド型は常に最新版が利用できる点が魅力でした。クラウド型のツールの中

には、勤怠管理や社内ワークフローができるものもあって機能様々で迷うところもありました。

しかし、今回私たちがとっては「セキュリティ」が最重要課題でした。この導入目的をぶらさず、セキュリティ脆弱性への対応や災害時にも強い点でクラウド型に、その中でもメールや情報共有が1つのツール内で二元管理できる点でMicrosoft 365に決めました。

② リーダーシップ

ツール選びから導入まで担当部署(管理課)が主体的に取り組んだことが結果につながりました。ツール選びから社内調整(経営陣へのプレゼン)、全社員を対象とした研修、研修後の社員からの個別質問への対応など一貫貫した対応が、わずか半年での導入という成果につながりました。

用語の解説

① グループウェア

情報共有やコミュニケーションを行い業務効率を上げるツールの総称。主な機能として、スケジュール管理、プロジェクト管理、ファイル共有、設備予約、チャット・掲示板など。

② オンプレミス

サーバー機器などのハードウェアおよび業務用アプリケーションなどのソフトウェアを、使用者の管理する施設内に設置して運用すること。それらを自社内に持たず、インターネットなどのネットワーク経由でサービスが提供されるクラウドの対になる形態。

事例
ITツールの二元管理で
管理の手間とリスクを省く

課題

- 社内サーバーの老朽化
- スバメールが多すぎる
- グループウェアの処理速度が遅い。開かないこともある
- サーバーのメンテナンス頻度が多く、管理の手間やコストがかかる

2018年以前

オンプレミス型グループウェア
サーバーやソフトウェアなどの設備を自社で導入・運用



効果

- 災害時のリスクを軽減
- スバメールはほぼ0に
- 数秒でログイン可能。メールの送受信も早く
- 管理者の負担減。運用ルールの作成やユーザー管理のみに
- コロナ禍のリモートワークもスムーズに

活用事例

Teams

チャットやファイル共有・ビデオ会議などの機能が一元化され、機能ごとにアプリを切り替える必要がない

効果

- WEB会議の際に、リアルタイムで画面共有や情報共有ができるようになり、営業所や顧客・協力会社とのやりとりが円滑に
- ファイル送信サービスを利用する必要がなく、セキュリティ面で安心
- OfficeファイルはTeams上で共同編集ができ、作業効率が大幅UP